

「キーワードは面白い」

嫌いにさせないためには、

学力をつけるしかない

岡本 美穂

「面白い授業」で子ども達を変えていくことが大切だと言える。「面白い」とは、子ども達が、「アー」「ハ」と（アハ体験）知ることに喜びを感じる必要がある、その愉しさが、分かる授業やできることへつながっていると言える。漢字学習の取組では、グループで一緒に調べる時間をとり、興味を持たせるとともに、学級づくりへも発展させている。

自分の思いを表現する絵画指導

塩田 真奈美

自らが描こうとするために、先ずは、描き方を知る必要がある。

また、見る角度を決めさせたり、作品のどこにこだわったかを考えさせたり、認め合うことを大切にしたりして、描くことに向かわせている。

学びは心をいやす

個々の学び方と向かい合って

小山 民子

前年度に困難な状況になった学級の担任になり、①期待しないこと、でもあきらめないこと②対象を尊敬すること③勇気づけたかよりも、勇気づいたかを大切に取組を進めた。何よりも、事実としてできたことをしっかりと褒めることを大切にしたい。日々の努力や進歩を大きく取り上げた。

「できた」を実感させる算数

最難関「割合」を面積図で乗り越える

山田 周司

五年生の算数最難関の「割合」の立式を導き出せる「面積図」について学んだ。関係図や線分図、ことばの式が如何に現実離れしているかを知り、その解決の糸口が面積図にはあることを伝えた。この方法が分かれば、立式ができ、「できる」という実感を味わうことができるのである。

○自分流「荒れない教室の作り方」、

学年崩壊、ザワザワ学級への対応から

島本 政志

学年崩壊の状態の中から子どもたちへ「言葉」を届けるときの教師としての態度や姿勢への細かな配慮を具体例をもとに数多く示していただきました。また、「荒れ」

の中で図工の授業を通して良好な関係を保つ指示の方法や工夫を臨場感いっぱいに伝えていただきました。清掃への取り組み方は、教師としての関わり方、意識改革など示唆の多い実践例でした。国語『鳥獣戯画』の取り組みでは、対象物を見る、意味をくみ取る、言語化、交流の実践を通して子どもたちの自立と成長を見守る姿勢に多くの共感をいただきました。

○すぐにできる！

3つの「書く」力の伸ばし方

門脇 哲朗

書けない子どもたちへ①モデルを

示したり、友だちの文章を手本にしたり、②書いた後は思い切りほめること。「主張・根拠・理由」の3つのロジックを視点に具体的な事例をたくさん紹介して成長の跡を示していただきました。

○全員参加を目指す社会科の授業

竹田 有希

江戸時代の「国学の発展」の授業を通して発言に自信がなかったり少なくなる六年生へ、発問を工夫したり、きめ細かなステップを設けて課題に迫る実践を模擬授業として紹介していただきました。

○潜水艦状態でもできる実践あれこれ

岸本 ひとみ

「学力不振・荒れ・崩壊」気味な学級の中で視覚に訴える教材提示帯タイムでの「百人一首・計算ずもう・音読など」の取り組み、また組体操への関わりを通して規律ある学級づくりの展望を示していただきました。